> ◇◇◇

して考えるこ とはできないと考えられています。
>
> 【知能検査とは】
> 人間の知能を科学的・客観的に測定する為に考案されたものであり、結果は標準化の手続きをへて作成された基準に基づいて表示されます。
> 検査の種類としては、ビネー式知能検査から始まり、ウェクスラー式検査に発展しています。また、現在では、立方体検査や人物画検査などといったものにも広がりを見せています。新しい神経心理学の知見に基づいた DN-CAS やフロスティック?U など多様な展開を見せています。
>
> 【東部療育センターではどのように使っているか？】
> 1)発達障害の子どもさんに対して
> 上に述べた『発達検査』や『知能検査』を使っています。
> 2)重症心身障害児（者）の方々に対して
> 表出系運動機能の障害が重篤でかつ、知能・認知的能力に大きな未熟さを抱えています当センターの重症心身障害児（者）の各種能力の発達を見るためには、これまでにとりあげた『発達検査』や『知能検査』では、十分に評価することができません。
> そこで、当センターでは「太田のステージ評価」を改良したものを使っています。これは人間の発達の最も早期に出現する快・不快のイメージの発達に焦点をあてた表象機能を評価した『発達検査』です。
> 人間の年齢で言うと 0 歳～1 歳～2 歳までの段階を、
> 「快・不快を表現できる段階」
> 「快・不快を適切な手段で伝えられる段階」
> 「自分の興味を持った（快の）ものを言語で伝えられる段階」等に分けています。
> この評価は、通常の発達検査や知能検査で使われる言語や手を使った行動以外のポイント（視線・ 表情・発声など）で評価できるので、便利です。
>また、「乳幼児と障害児の感覚運動発達アセスメント（MEPA－?U）」も評価の参考として使っています。これは「姿勢」「移動」「操作」「コミュニケーション」の各領域で、特に乳幼児期に焦点をあてて細分化された項目が設けられています。
>しかし、標準化された一定の心理学理論で体系つけられた検査をあてはめることがなかなか難しいのが現状です。そのために、利用者の方々が見せる一つひとつの行動から、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚・運動感覚などの五感や認知・思考・情緒などの高度な心理学的な機能を、地道に読み取る作業が欠かせません。
>
> ＜参考文献＞
>　　心理学辞典（平凡社）

>　　自閉症治療の到達点（日本文化科学社）
>　　乳幼児と障害児の感覚運動発達アセスメントマニュアル（コレール社）
> ◇◇◇